

斑点米カメムシ類情報第1号

令和5年7月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

イネカメムシは出穂期に薬剤防除を実施しましょう

1 発生状況

6月下旬県内85ほ場で行った水田周辺の畦畔雑草における20回すくい取り調査において、斑点米カメムシ類の捕獲数は4.52頭（平年16.59頭、前年28.86頭）と、過去10年で最も少ない状況です。

なお、種ごとの捕獲数は、カスミカメ類など小型のカメムシが少ない一方、斑点米の産出能力の高い大型のカメムシ（イネカメムシ、クモヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ）は平年並からやや多い状況です。

予察灯における誘殺数は、弥富市、西尾市及び大口町では平年並ですが、長久手市と豊川市は少ない状況です。

特に、近年増加傾向にあるイネカメムシは、予察灯では5月中旬に西尾市で1頭、6月中旬に弥富市で1頭誘殺がありましたので、注意が必要です。

2 防除対策

イネカメムシは、出穂期に糞を吸汁し不稔糞を生じさせることから、発生すると減収につながります。前年に本種の発生がみられたほ場では、表を参考にして出穂初期に効果が現れるように薬剤防除を実施しましょう。

その他の斑点米カメムシ類についても、畦畔や水田内をよく観察し、発生が多い時は出穂期前後から穂揃期に薬剤防除を実施しましょう。

イネカメムシ、その他の斑点米カメムシとも、1回目の防除後も発生が多い場合は7日から10日後に再度防除しましょう。

なお、斑点米カメムシ類は、主に水田畦畔のイネ科雑草が発生源となるので、出穂2～3週間前までに除草を徹底しましょう。ただし、出穂直前の除草は本田にカメムシを追い込むおそれがあるため、注意しましょう。水田内で穂をつけたヒエ類なども発生を助長するので除去しましょう。

また、使用する薬剤により散布適期が異なるので注意しましょう。

表 斑点米カメムシ類に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
トレボンEW	収穫14日前まで	3回以内	3A
キラップフロアブル キラップ粒剤	収穫14日前まで	2回以内	2B
スタークル／アルバリン顆粒水溶剤 スタークル液剤10 スタークル／アルバリン粒剤 スタークル豆つぶ	収穫7日前まで	3回以内	4A

キラップ粒剤の散布適期は、出穂10日前から出穂期までなので注意する。

成分ごとの総使用回数に注意しましょう。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細はhttps://www.jpca.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdfを参照する。
農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。